



UNIC Tokyo Dateline UN

June 2000 Vol.12

国際連合広報センター

「女性 2000 年」 国連特別総会

国連ニューヨーク本部にて6月5日から9日まで「女性 2000 年 : 21 世紀に向けた男女平等、開発および平和」国連特別総会が開催されました。最終日の6月9日、コフィー・アナン事務総長のスポークスマンより以下の声明が発表され、会議は閉幕しました。

「アナン事務総長は「北京 + 5」交渉の成果に喜びを感じています。事務総長は、5年前に北京で女性が得た前進の足固め、保護および発展を図ろうとする努力において、各国代表団が示した協力の精神に拍手を送ります。アナン事務総長は、最終文書が「北京宣言および行動綱領」におけるすべてのコミットメントを完全に維持していること、ならびに、一部の分野において、行動綱領が強化されたことに満足しています。同人はまた、人身売買、家庭内暴力および名誉犯罪と闘い、女性の保健および関連サービスに対する権利の完全な享受を確保し、経済的・政治的に女性のエンパワーメントを図り、平和維持、平和創造および予防外交への女性の完全な参加を奨励する行動を含め、新たな課題に対処する上で見られた進展により、極めて勇気づけられました。アナン氏はまた、女性がグローバル化の負担を背負うのではなく、その恩恵を得られるようにすることを目指した決定に満足を表明しています。」

地球の将来は女性の肩に

以下は6月5日、アナン事務総長が国連特別総会「女性 2000 年 : 21 世紀に向けた男女平等、開発および平和」開幕の際に行った声明です。

「5年前、各国の代表と非政府機関（NGO）は北京に赴き、悪しきを正して権利を促進しようと試みました。それは、女性が不正の犠牲となれば、私たちすべてが犠牲となること、女性に力が与えられれば、私たちすべての生活が改善することを示すためでした。会議は成功を収め、その成果は「北京行動綱領」となって結実しました。それから5年後、皆さんはここニューヨークで、これまでの進歩を再検討し、今後の成果に向けて取り組んでいるのです。

これまで、明らかに進歩はありました。女性に対する暴力は現在、あらゆる場所で違法行為とされています。むしろ「恥辱殺」と呼ぶべき、いわゆる「名誉殺」の問題など、有害な伝統的慣習に対しては、世界中から非難の声が上がりました。多くの国々では、新たな保健戦略により、数千人の女性の命が救われました。家族計画を利用するカップルの数も、これまで以上に増えています。また、内閣や取締役会、さらにはここ国連において、指導者や意思決定者となっている女性も記録的な数に達しています。とりわけ、男女平等が開発の前提条件であることを理解する国が増えています。

しかし、それと同時に、残された課題も多いといえます。具体的な例をあげましょう。



縫い物をする中央アフリカ共和国の女性



タンザニアの茶農園で茶葉を摘み取る女性たち

INSIDE

「女性 2000 年」国連特別総会	2
「世界の女性 2000: 傾向と統計」	3
ミレニアム・フォーラム	6
国連報道・漫画賞の募集	7
広報センター所長退職	8

<http://www.unic.or.jp>



「女性 2000 年」国連特別総会
(北京 + 5) のポスター



特別総会で演説するアナン事務総長

「女性 2000 年」 国連特別総会

6 月 5 日から 9 日まで国連ニューヨーク本部にて「女性 2000 年」国連特別総会が開催されました。今回の会議は 1995 年に北京で開催された女性会議のフォローアップとして開催されたもので、北京で採択された行動綱領の実施状況などの見直しがおこなわれました。テーマは「女性 2000 年：21 世紀に向けた男女平等・開発および平和」です。

会議に関する詳細は URL <http://www.un.org/womenwatch/daw> でご覧いただけます。



ブルキナファソで粘土の壺を作成する女性たち

経済的に、男女間の格差は依然として拡大しています。女性は所得が少なく、失業していることも多いため、一般的に男性よりも貧しい状態にあります。女性の仕事は引き続き、パートであったり、正式なものでなかったり、規制対象外であったり、不安定であったりすることが多くなっています。女性が生殖においてだけでなく、生産の役割も担っているという事実があまりにも知られていません。大半の国はまだ、女性が土地その他の財産を所有する権利を認める立法を制定していません。また、ほとんどの国が法律で禁止しているにもかかわらず、女性に対する暴力は、家庭においても、また、女性や子どもが最初の犠牲者となるような、一般市民を標的とした新しいタイプの武力紛争においても、依然として増え続けています。学校に通っていない 1 億 1,000 万人の子どものうち、3 分の 2 が少女です。中途退学者の数でも、女子生徒のほうが男子生徒を上回っています。

これら旧来からの課題に加え、新たな課題も生まれています。2 つの例を挙げましょう。第 1 に、エイズの蔓延は、女性と少女に破滅的な被害をもたらしています。南部アフリカで最悪の被害を受けている諸都市では、妊婦の 40% が HIV 陽性であり、10 人の子どものうち 1 人以上がエイズで母親を失っています。祖母が孤児を育てていたり、少女が病気の親類の世話をするために学校に通えなかったりすることもあります。女性が懸命になってつなぎ止めようとしてきた社会的きずなは、破壊されつつあります。第 2 に、聖書の時代にまでさかのぼる悪しき慣習である女性と子どもの人身売買は、世界的な悪疫となっています。

これらの挑戦に対しては即刻、行動を起こす必要があります。私は加盟国に対し、9 月のミレニアム・サミットで、HIV / エイズの蔓延を食い止め、押し戻すための具体的目標を策定するよう要請しました。また、国連人権高等弁務官は、権利を基礎とするアプローチと強固な法制を通じ、人身売買を防ぐ国際協調キャンペーンの実施を求めています。

新旧ともども、これらの課題はすべて、私たちが生きている複雑で相互関連的な世界の一部なのです。女性を最悪の状態に陥れるのではなく、女性がこの世界を十分に活用できるようにしなければ、これらの課題を克服することはできません。それはとりわけ、女性が教育を受け、グローバル経済における自らの役割を果たせるようにしなければならないことを意味します。少女が HIV の感染から身を守るために必要な情報を得られないのは、教育が不十分だからです。また、早期の性交渉によって女性が感染の危機にさらされなければならないのは、就職の見込みがないことに起因していることも多いのです。

同様に、多くの女性が移住を望み、結果的に人身売買の対象となってしまうのは、経済的機会が欠如しているためです。私たちがどれほど対策法を整備しようとも、教育を受けていない女性は人身売買の餌食となってしまうでしょう。教育はすなわち、グローバル経済への入口であると同時に、その落とし穴に対する最善の防衛策でもあるのです。グローバル化には技術革新が伴い、単純労働者よりも高度な技術を身に付けた労働者が有利になります。これにより、男女間の所得格差はさらに広がっています。女性にこの格差を縮めさせることができるのは、教育において他にありません。

すでに、多くの女性が織物産業からデータ処理に至るまで、グローバルな生産活動に従事しています。しかし、その大半は飢餓すれすれの賃金で、劣悪な条件の下に働いています。女性が経営者、起業家、雇用主、労組指導者および雇用関連の弁護士として、経済的な決定を下せない限り、また、女性がコミュ

ニティーの指導者、交渉者、裁判官および閣僚として、社会的・政治的決定を下せない限り、この状況は変わらないでしょう。

アフリカその他多くの地域ではすでに、女性が農業労働の主力となっています。しかし、ほとんどの女性には依然として貸付、土地所有および相続の権利が認められていません。その労働には感謝も報酬も伴いません。女性のニーズは優先されていないのです。家庭でさえ、女性の意思決定の役割は制限されています。この点においても、教育は大きな変革をもたらすことができます。女性の土地、貸付、マーケティング用施設および技術に対する権利、ならびに、土地改革における平等の発言権を女性自らが擁護できるようになれば変革もたらされることになるでしょう。教育を受け、労働力に統合されれば、女性は自らの婚期と子どもの数について、よりよい選択を行えるようになります。女性とその子どもたちの栄養、健康管理および教育の状況も改善できるでしょう。そして、このような実例は、女の子が少なくとも男の子と同様に投資する価値のある存在だというメッセージを親に伝えることにより、周囲の考え方にも影響を与えることでしょ。

事実、どの研究を見ても、女性が中心的な役割を果たす開発戦略は、男女とも社会全体にとって、最大の利益をもたらすことが確認されています。私は今世紀中に、最善の紛争予防における戦略が平和創造者としての女性の役割拡大にあることが立証されるものと期待しています。国連内部においても、私たちは平和維持と平和創造により多くの女性を起用する方法を見出さなければなりません。

私のミレニアム報告書でも、また、世界教育フォーラムにおいても、私が各国政府に少女の教育を優先課題とするよう求めたのは、まさにこのような理由からです。事実、私は、世界のあらゆる人々のために私が全世界の指導者に採択を要請したすべてのミレニアム目標を達成する上で、北京綱領の実施が極めて重要であると信じています。

5年前、皆さんは「私たちは地球上の客ではなく、その主役なのだ」という単純明快な認識を持って、北京に赴きました。そして5年後の今、私はあえて、これがあまりにも控え目な発言であることを申し上げたいと思います。私はこの特別総会が、女性は地球上の主役であるばかりか、地球の将来は女性の肩にかかっているのだということを、世界に知らしめるものと期待しています。」

国連「世界の女性 2000 : 傾向と統計」を公表

入手可能なデータに基づく最新の包括的報告

進展は見られるも、全世界で男女間の格差は残る

5月31日、国連は「世界の女性 2000 : 傾向と統計」と題する報告書を発表しました。これは保健、人権・政治的意思決定、労働、教育・コミュニケーション、人口および家族という6つの分野について、最新のデータを集計し、世界中の女性にとっての進歩を文書化した貴重な報告書となっています。国連統計部が作成したこの報告書は、1995年に北京で開かれた第4回世界女性会議以降、各国政府が女性の生活向上において達成した進歩を再検討し、女

国連クイズ

クイズ形式で国連用語をご紹介します。

以下の用語の日本語訳を考えてみて下さい。

- 1) Commission on the Status of Women
- 2) Economic and Social Council (ECOSOC)
- 3) Fourth World Conference on Women
- 4) Committee on the Elimination of Discrimination against Women
- 5) Division for the Advancement of Women
- 6) UN Development Fund for Women (UNIFEM)
- 7) International Research and Training Institute for the Advancement of Women (INSTRAW)
- 8) Declaration on the Elimination of Violence against Women
- 9) Convention on the Elimination of All Forms of Discrimination against Women (CEDAW)

(答えは次ページ)

Visit our website
<http://www.unic.or.jp>

3 ページの クイズの答え

- 1) 婦人の地位委員会
- 2) 経済社会理事会
- 3) 第4回世界女性会議
- 4) 女子差別撤廃委員会
- 5) 婦人の地位向上部
- 6) 国連婦人開発基金
- 7) 国際婦人調査訓練研修所
- 8) 女性に対する暴力撤廃に関する宣言
- 9) 女子に対するあらゆる形態の差別撤廃に関する条約



国連キプロス平和維持軍(UNFICYP)で働くスウェーデン歩兵隊の女性隊員

性に関する今後の優先課題について合意することを目的とした「女性2000年」特別総会に先駆けて発表されたものです。

「この報告書は、世界の女性が真の意味でその生活をどれだけ向上させたかという、緊急かつ複雑な問題に対する答えを提供しようとするものです」と語るのは、国連経済社会問題担当事務次長のニティン・デサイ氏です。「入手可能なデータによれば、女性は進歩を遂げてはいるものの、男女間には依然として不平等が見られます。小中学校の就学については、男女間の格差が縮まってはいるものの、目標の2005年までにこの格差が解消される可能性は低くなっています。経済社会活動への参加に関する男女格差は縮小する一方で、女性は相変わらず、家庭と仕事の両立を強いられています。ほとんどの地域では最近、早婚と若年出産が減少してきており、これは女性の生活が真の意味で質的な変化を遂げたことを意味していますが、南アジアの5か国に3か国、および、サハラ以南アフリカの30か国に11か国では、15歳から19歳までの若い女性の30%以上が結婚しているのです。」

同報告はまた、ジェンダー統計収集における進歩に触れながらも、女性に対する暴力や妊産婦保健など、女性独特の問題に関し、新しいデータが必要であることを強調しています。例えば、女性のリプロダクティブ・ヘルスや母子の安全は新たに重要視されていますが、報告によれば、母子の安全に対する関心の高まりが、母子のケア改善に結びついているかどうかを示すデータは、まだ入手できていません。

「世界の女性2000」の要点と重要な調査結果

保健

* 先進国と開発途上国の間では、一生の間の妊産婦死亡リスクに引き続く格差が存在している。アフリカの女性が一生の間に出産関連の原因で死亡するリスクは16人に1人であるのに対し、アジアではその比率が65人に1人、ヨーロッパでは1,400人に1人となっている。

* 現在、女性はHIV/エイズ症例のほぼ半数を占めており、HIVの蔓延率が高い国々では、若い男性よりも若い女性の方が、HIVに感染するリスクが高くなっている。

* 平均寿命はほとんどの開発途上地域で、男女ともに伸びているが、南部アフリカではエイズにより、平均寿命が劇的な低下を見せている。

労働

* 世界の労働人口に占める女性の割合は増えており、北米と西アジアを除くすべての地域で3分の1を占めている。

* 女性の労働力への参加は増えたものの自営業、パートおよび自宅勤務によって、これらの労働力は、不安定性、諸手当の欠如および低所得を特徴としている。

* その生殖年齢を通じ、労働力に留まる女性が増えているが、家庭と仕事の両立という障害は消え去っていない。

人権と政治的意思決定

* 世界的にみて何百万という女性と女兒が、身体的・性的虐待を受けているが、この件数は著しく過少報告されていることが認識されてきている。

* 一部のアフリカ諸国では、女性と女兒の半数以上が女性器切除を受けて

おり、その件数は減少していない。

* 女性と女兒は、世界の難民の半数を占めており、彼女たちは難民という立場によって、逃亡中や難民キャンプ滞在中、さらには再定住の際に、性的な暴力にさらされやすくなっている。

* 男女平等を求める声にもかかわらず、政府、政党および国連における女性の数はあまりにも少なすぎる。

教育とコミュニケーション

* 小中学校における男女格差は縮小しているものの、アフリカと南アジアの一部の国々では、女性が依然として男性に大きな後れを取っている。

* 世界中で読み書きのできない人の数は8億7,600万に上るが、その3分の2は女性であり、読み書きのできない人の数は今後20年間、大きくは減少しないものと見られる。

* 「ニューメディア」の職業に就くために必要な基本的な識字能力とコンピューター技能を欠いている人々は、男性よりも女性に多い。

家庭における女性と男性

* 一般的に、女性の晩婚化が進んでいるが、22カ国では、15歳から19歳までの女性の4分の1以上が結婚しており、しかもそのすべてが開発途上地域にある。

* 先進国と一部の開発途上国では、形式にとられない結婚が幅広く見られる。

人口

* 平均的に、出生率は低下しているが、出産適齢期の女性が増えているため、世界人口は増加を続けている。

* 女性は国際移住者の過半数を占めており、総計1億1,800万人のうち5,600万人が女性であると見られている。

「ジェンダー統計の開発が大幅に進歩したことは事実ですが、女性の地位向上の測定には逸話や誤解が多く存在するのです」とデサイ氏は語っています。特に懸念される多くの問題について、まったくデータが収集されていなく、データが収集されていてもそれがごく一部の国々に留まっているケースも見られます。女性に関する一連の基礎的統計が、国によっては定期的には収集されていないことも問題です。各国の統計能力、すなわち、時宜に合った信頼できる統計を提示できる能力は、ジェンダー統計の改善に不可欠であり、経済社会理事会は、世界会議の成果の実施とフォローアップにとって、統計能力の改善が重要であることを認識しています。経社理は各国、国際機関および地域機関に対し、特に開発途上国において、重要かつ必要なデータを作成する効果的なシステムを設けるよう求めており、そうすることにより私たちは世界中の女性の地位向上を真に把握できるようになるのです。

「世界の女性2000：傾向と統計」の入手をご希望の方は、以下にお問い合わせください。

United Nations Publications

Two UN Plaza, Room DC2-853, Dept. PRES, New York, NY 10017

Tel: +1-800-253-9646 または +1-212-963-8302

Fax: +1-212-963-3489

Web Site: <http://www.un.org/publications>

国連ミレニアム・サミット 「21世紀における 国連の役割」 取材申請書の受付

来る9月5日より国連ニューヨーク本部にて第55回総会「国連ミレニアム総会」が開催されます。総会の開催にあわせ、翌9月6日より8日まで「国連ミレニアム・サミット」が開かれ、国連加盟国の首相・閣僚級の参加が予定されています。この会合ではコフィー・アナン国連事務総長が4月に発表したミレニアム報告書をたたき台として、報告書で提案された貧困の軽減、教育の改善、平和と安全強化、HIV/エイズ抑制、および環境保護等の地球規模の問題への具体的な対策が討議される予定です。多くの報道関係者の方々にこの千年紀を記念するミレニアム・サミットの取材を行っていただけますよう、国連広報センターは取材申請書を配布しております。ご希望の方は当広報センターまでご連絡下さい。また、ミレニアム・サミットに関する詳細は以下のウェブ・サイトでもご覧いただけます。
<http://www.un.org/millennium/summit.htm>



アナン事務総長のミレニアム報告書

「われら人民:21世紀における国連の役割」

核不拡散条約（NPT） 再検討会議のまとめ

ニューヨークの国連本部で4月24日から4週間にわたって開催されていた核不拡散条約（NPT）再検討会議は、日程を1日延長して5月20日、将来に向けた核軍縮措置を含む最終文書を全会一致で採択して閉幕しました。今次会議はNPT条約が1995年に無期限延長されてから初めての再検討会議となり、187の締約国のうち155カ国が参加しました。

コフィー・アナン国連事務総長は閉幕に際して声明を発表し、NPT再検討会議が、国連加盟国の全ての人民の安全保障にとって極めて重要な課題に関して「歴史的な合意」を達成できたことを評価しました。人類は核の危機が無い世界、核不拡散と軍縮に関してグローバルな規範が強化された世界を求めており、その追求において最終文書は貴重な一歩となったことを確信する、と事務総長は伝えました。

「核保有国はその核兵器の完全廃絶を明確に約束する」という点で、締約国は合意しました。またその他の合意事項としては、核兵器能力に関する透明性（情報公開）の強化および安全保障における核兵器の役割の低減が挙げられます。

核不拡散に関しては、キューバ、インド、イスラエル、パキスタンに対して非核保有国として「即時かつ無条件に」NPTへの加盟を要請しました。また、会議はインドとパキスタンが1998年に実施した

（7ページへ続く）

ミレニアム・フォーラム

「最終宣言」と「行動計画の課題」を採択

1週間のNGO討議の総括文書、21世紀の国連に 関する市民社会のビジョンを明示

5月26日、ミレニアム・フォーラムは「最終宣言」と「行動計画の課題」を票決なしで採択し、法的拘束力を有する枠組みによって多国籍企業の活動を規制すべきこと、および、開発途上国には世界貿易機関（WTO）の義務づける「貿易関連知的所有権」の履行を免除すべきことを強調しました。フォーラムはまた、ブレトンウッズ機関とWTOを統合し、経済社会理事会に対する説明責任を負わせることを求めました。

最終宣言は過去10年間の世界会議で市民社会が作成したさまざまな代替的行動綱領を勘案した上で、フォーラムの6つのメインテーマ、すなわち1)平和、安全と軍縮、2)貧困の撲滅、3)人権、4)持続可能な開発と環境、5)グローバル化の挑戦への対処、および6)国連と国際機関の強化・民主化に関し、市民社会の見解を明確に示しています。この文書は政府の行動に関する勧告、国連に対する提言、および、市民社会自体が取るべき行動という、3つの主要分野に分かれています。

最終宣言は「すべての人々が完全に参加し、自らの運命を決定する人間中心で真に民主的な世界」というビジョンを提示しながら、「企業主導型のグローバル化」は、国家間および各国国内での不平等を拡大し、各地の伝統と文化を損い、貧富の格差を広げると指摘します。すなわち、1)貧困と飢餓の解消、2)世界平和の確立、3)人権の保護と促進の確保、4)環境保護、5)職場での社会的基準の強化を行うことにより、グローバル化は万人に資するものとなるべきなのです。

フォーラムは国連に対し、貧しい人々が貸付を受けることができるようにするため、「グローバル貧困撲滅基金」を直ちに設立するよう求めています。その他のイニシアチブに加え、国連は「貧困撲滅のための国連の10年」（1996年から2007年）において、文化の発展を掲げることも要請されています。宣言は各国政府に対しても、先住民、貧困家庭、HIV/エイズ感染、経済改革および債務帳消しに関連する問題に取り組むよう求めています。

フォーラムはさらに、国連とその加盟国が、平和を維持し、人命を守るというその第一義的責任を全うしていないと指摘しました。よって、最終宣言は国連に対し、少なくとも50人の専門的訓練を受けた調停者で成る部隊を設立し、紛争防止の実効能力の向上を図ることを含め、全世界での武力による暴力のレベルを低減させる措置を数多く講じるよう求めています。宣言はまた、総会が緊急対応による紛争防止と早期警戒のために、開放型紛争防止委員会を設置すべきであるとしています。

政府が取るべき行動として、ミレニアム・フォーラムで採択された最終宣言は全世界的な武力の凍結、ならびに、主要な兵器および小火器の生産・輸出の25%削減を勧告しています。このために、武器輸出に関する国際的な行動規範が採択されるべきだとしています。人権の不可分性と相互依存性の認識に基づき、宣言は国連に対し、人的・財政的資源配分のバランスを達成すべく自らの人権機関と慣行の再検討を行うこと、および、先住民、少数民族、

高齢者および障害者の権利に関し、拘束力のある国際法文書を採択することを要請しています。政府はある権利を優先することで、それ以外の権利を無視するべきではありません。持続可能な開発、投資および貿易を追求するためには、政府はあらゆる人権を保障しなければなりません。フォーラムは人権を執行する際の選択性と二重基準に対する懸念を表明し、安全保障理事会の理事国政府による国際人権基準の遵守をより実効的なものとする必要性を強調しました。

持続可能な開発と環境の問題に関しては、フォーラムは国連に対し、持続不可能な開発とその環境、人間居住および社会開発に及ぼす影響を地球的に査定するよう求めています。国連は、その諸機関によって行われた関連調査に基づき、世界的な連帯基金の設立を促進すべきだ、とフォーラムは提言しています。と同時に、国際金融機関を規制する上でリオおよびコペンハーゲンで採択された原則とプログラムがこれらの国連諸機関によって遵守されるべきだと指摘しています。市民社会に対しては、持続可能な開発を生み出すような価値観と行動を促進する道具として「地球憲章」を採択し、これを普及させることが求められています。

5月26日のフォーラムでの提示を受けて、最終文書に含まれる基本原則と行動計画は、「北京+5」および「コペンハーゲン+5」における非政府機関(NGO)の討議、ならびに、その他の国際フォーラムから出される課題も組み入れられるよう、6月中も修正可能な形で残されます。これにより、フォーラムに参加できなかったNGOにも、意見を表明する機会が与えられることになりましょう。その上で、最終案は総会議長に提出され、議長はこれを総会文書として発表することになります。最終宣言は9月、ミレニアム総会に正式に提示される予定です。

ミレニアム総会の準備会合として開かれたミレニアム・フォーラムは、5月22日に作業を開始しました。フォーラムは、「21世紀に向けた国連」という幅広いテーマの下に全世界から市民社会の代表を集め、新世紀における国連の役割に関する意見を求めること、NGOおよび市民社会のあらゆる部門の革新的なアイデアと創造的な経験を結集すること、将来に向けたビジョンを明確に示すこと、ならびに、グローバルな意思決定過程に対する世界の人々の実効的参加を促進することという目標を追求しました。

「国連報道ミレニアム賞」 および「UNCA/ラナン・ ルーリー漫画賞」作品募集

国連報道協会(United Nations Correspondents Association: UNCA)が第6回国連および国連諸機関に関する国連報道ミレニアム賞および第1回UNCA/ラナン・ルーリー漫画賞の募集を行っています。両賞ともに、2000年10月23日、国連ニューヨーク本部にて開催される国連報道ミレニアム賞特別晩餐会において授与される予定です。

応募はニューヨークのUNCAまで直接申し込むこととなります(2000年8月1日必着)、各賞の詳しい募集要綱は当広報センター(Tel:03-5467-4451/2)にお問い合わせ下さい。

(6ページからの続き)

核実験に対して憂慮を表明し、過去の誓約にもかかわらず、両国が依然としてCTBTに署名・履行していない事実に遺憾の意を表しました。

第53回 DPI / NGO 年次会議のお知らせ

第53回 DPI / NGO(国連広報局登録NGO)年次会議が、今年ミレニアム総会の開会に合わせて例年より早く8月28日から30日まで国連ニューヨーク本部で開催される予定です。今会議のテーマは、「グローバルな連帯：平和と国際協力への道」となっております。今回は経済社会理事会に協議資格を有するNGOおよび国連広報局登録NGOだけではなく、広く市民社会に対して参加が呼びかけられています。参加の詳細に関しては当センター(Tel:03-5467-4451/2)までご連絡下さい。



ラナン・ルーリー氏(下)と彼の描いたアナン国連事務総長(右上)

ご挨拶

テルマ・オコン＝ソロルサノ 所長

国連を退職(在任期間：1998年11月－2000年6月)



After 31 years of service at the United Nations in eight different countries, I shall end my United Nations career here in Tokyo. I leave the UN with conviction that what we contribute to the well-being of the world will be returned to us as respect. I can say that I had wonderful opportunities and a very interesting work and as its consequence I have been enjoying every minute of my UN life.

I will always remember all the wonderful memories of my experiences, my friends and colleagues whom I encountered throughout my UN career. Coincidentally enough, I will start a new life in Nicaragua, my home country after many years of absence, in the beginning of the new millennium full of challenges including taking care of my four year old son and opportunities.

Thank you.

.....

ここ東京を最後に、私は国連でのキャリアに終止符を打つことになりました。この31年間、私は8ヶ国におよぶ国連事務所に勤務してきました。私が長いキャリアを通して確信したことは、この世界では自分が社会福祉のために貢献した分、尊敬という形で自分に返ってくるということです。私はすばらしい機会に恵まれ、とてもやりがいのある仕事をしてきました。国連の仕事を十分に満喫できたのは、そのおかげだと言えましょう。

私は今まで経験してきたこと、そして仕事を通じて出会った友人や同僚のことをすばらしい思い出として、いつまでも大切にしていこうと思います。偶然にも、私は新しいミレニアムの幕開けに母国ニカラグア - もう何年も戻っていない国ですが - で新しい生活を始めます。そこでも私の4歳になる息子の養育を含め、多くの挑戦が待ち構え、また良い機会に恵まれることでしょう。

皆さん、ありがとうございました。



発行：国際連合広報センター

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-70 国連大学ビル8階

TEL: 03-5467-4451

FAX: 03-5467-4455

E-mail: unictok@blue.ocn.ne.jp